

平成27年度復興庁「心の復興」事業一次採択提案一覧①

No.	提案名	取組内容	提案団体名	対象地域
岩手県				
1	食でつなぐ人と地域in山田2015	健康診断・健康体操、郷土料理の伝承教室、「食」をテーマにした「心の復興講演会」、地元素材を活かした開発加工品の発表、交流を行う。応急仮設住宅等において孤立しがちな被災者に対して地域コミュニティの再生と生きがいづくりを目的とする。	復興！船越地域協議会	岩手県山田町
2	仮設住宅居住者等の生きがいづくりとしての農園運営及びものづくり支援事業	農園での野菜作りに学生ボランティアを受け入れ、収穫祭などで交流を図る。また、収穫物を活かした工芸品づくりを進める。孤立感が高い方や、引きこもり、アルコール依存症などになってしまった仮設住宅居住者の症状や孤立感への緩和を目的とする。	新生おおつち	岩手県大槌町
3	被災地におけるもの作り教室と食事交流会を通じたこころのケア事業	仮設住民に刺し子や手編み商品を制作してもらいバザーで販売する。また郷土料理作りを通じた住民交流会活動を実施する。また、傾聴、訪問相談も行う。被災地での仲間作り、生きがいづくりを促し、地域のコミュニティ形成とこころの復興につなげる。	NPOサンガ岩手	岩手県大槌町、釜石市
4	釜石・大槌大学プロジェクト	地域学、復興学、企業とまちづくり講座など大学の模擬講座を釜石、大槌で行う。また、全国の学生が参加する仮設住宅のボランティアツアーを実施する。仮設住宅の住民と学生が講座を通じて学びながら交流すること、住民自らの経験を講座に取り入れ住民に講師の役割を担ってもらうことでの「生きがいづくり」ができる。	NPOアットマークリアスNPOサポートセンター	岩手県釜石市、大槌町
宮城県				
5	「心の農園」プロジェクト	開成・南境の大規模仮設団体の近くで微生物農法講習会、調理講習会、収穫物販売などを行う。農園での共同作業の中で自分の力を発揮することによる心身の快い疲れ、いい土づくりの知識や技術の獲得、収穫の喜びなどを味わうことで、心の復興に寄与する。	NPO石巻スポーツ振興サポートセンター	宮城県石巻市
6	心の復興を目指す「イシノマキファーム&イシノマキマルシェ(仮称)」プロジェクト	石巻市内で借り上げた農地(イシノマキファーム)にて仮設住民が農作物を栽培し、収穫した作物を販売所(イシノマキマルシェ)にて定期的に販売する。参加すること自体が本人たちのリカバリー(心の復興)につながる仕組みを構築する。	NPOSwitch	宮城県石巻市
7	南三陸人と人のつながり、まちづくり参加を通じた生きがい創出事業	コミュニティ巡回訪問とワークショップ形式の話し合いを実施し人と人をつなげ、住民連携の充実をはかる。また、土食の開発や手工芸品の製作やイベントを被災者である住民が積極的に取り組み実施できるようにサポートすることで、地域内の循環を促し、住民の生きがいづくりにつなげる。	NPO夢未来南三陸	宮城県南三陸町
8	被災者と地域住民の交流充実化に向けた地域協働型プロジェクト	耕作放棄地の農地化と野菜類の栽培、それらを活用した食交流プログラムの実施する。また、手作り市の開催と防災マップ作りによる地域交流プログラムを行う。他人とのかかわりが増え自分の存在価値発見につながり、生きがいを持つことになる。	NPO故郷まちづくりナイン・タウン	宮城県登米市
9	多世代協働による「食づくり・ものづくり」ハッピープロジェクト	ハーブや農作物を育て、大学や飲食店と連携してメニュー開発を行う。また、ハーブを基にしたアロマづくりやアイロリーを制作する。事業への参加を通して被災者の疲れた心と体のリフレッシュを図る。	ハッピープロジェクト	宮城県東松島市
福島県				
10	のびやかで前向きな心も育てるミシンの学校	障害者や福祉職員が縫製技術を学びながら小物を製作する。また、賛同する県外企業などのネットワークを構築する。障害者に復興の一助として活躍する場をつくり、生きがいを取り戻す活動を行う。避難生活の中で新たに福祉的配慮が必要となった引きこもりがちな方々も積極的に受け入れていく。	NPOLんせい(JDF被災地障害者支援センター)	郡山市、福島市、二本松市、川内村、いわき市
11	ベテランママの会高齢女性サロン活動とその効果測定	仮設住宅に入居する高齢女性が集える場を提供し、「編み物教室サークル」や「書道教室」などのサロン活動を行う。また、県内の他地域の団体等との交流イベントを開催する。運営に首都圏や県内の大学生スタッフを巻き込むことで世代間交流も促進する。これらの活動を通じて、女性による女性のための生きがいづくりに取り組む。	ベテランママの会	福島県北沿岸地域、県内避難先

被災者支援「ニュースレター」(第6号)

復興庁被災者支援班
平成二十七年四月三十日

「心の復興」事業の一次採択提案を決定

平成27年度から新たに創設しました、被災者の生きがいづくりに資する活動を支援する「心の復興」事業について、52団体からの応募をいただき、22団体を一次採択として決定させていただきました。

農業、伝統・文化、まちづくり、ものづくり、世代間交流など、多様なテーマの生きがいづくりに資する活動を、様々な地域で支援していきます。

今回の採択額は、22団体の合計で6千2百30万円でありますが、参加者数は全体で約7千5百人に上り、そのうち仮設住宅居住者の参加者数は約5千5百人にも上ります。

のとなつていきます。

東日本大震災から4年以上が経過し、仮設住宅での避難生活が長期化する。方々や災害公営住宅に移転された方々の心のケアやコミュニティづくりが重要な課題となつてきています。

被災者の方々の人と人とのつながりを創り、生きがいを持って前向きに暮らしていたため取組を支援していきたいと考えています。

五月には、第一次で採択に至らなかった提案も含め、第二次採択の提案公募を予定しています。皆様の積極的な応募を期待しております。

「心の復興」事業の実施について【一次採択】平成27年4月28日



平成27年度から被災者の生きがいづくりに資する活動を支援する「心の復興」事業を新たに実施。52団体の応募から22団体の一次採択を決定。全体で7500人(仮設住宅居住者約5500人)が参加するプロジェクトを推進
・平成27年度「心の復興」事業の予算額: 1.1億円 ・2次公募は5月に実施予定

心の復興

22のプロジェクト

[一次採択額計6,230万円]

全体参加者 約7500人

うち仮設住宅居住者約5500人

「イシノマキ・ファーム事業&イシノマキマルシェ」プロジェクト【農業】

【実施地域】 宮城県石巻市
【実施主体】 NPO法人Switch
【参加者数】 170人
うち仮設住宅居住者150人

【実施内容】 石巻市内で借り上げた農地(イシノマキファーム)で仮設住民が農作物を栽培し、収穫した作物を販売所(イシノマキマルシェ)にて定期的に販売する。参加すること自体がリカバリー(心の復興)につながる仕組みを構築する。

心の農園プロジェクト

【仮設住宅居住者の生きがいづくりとしての農園及びものづくり支援事業】

【食でつなぐ人と地域n山田2015】

被災地におけるモノづくり教室と食事交流会を通じた心のケア事業

【のびやかで前向きな心も育てるミシンの学校】

【ベテランママの会高齢女性サロン活動】

「いま、ここで生きている」展 作品展覧会開催計画【ものづくり】

【実施地域】 岩手県大槌市、宮城県名取市、福島県相馬市等
【実施主体】 ARTS for HOPE
【参加者数】 650人
うち仮設住宅居住者480人

【実施内容】 岩手、宮城、福島の仮設住宅及び災害公営住宅入居者を対象とした「ものづくり」のワークショップを行い、その成果物である作品を広く紹介する展覧会を開催する。展覧会出店に向けた作品制作を通して、被災者の生きがいづくりに寄与し、各地に居住する被災者同士が同じ目標に向かって心をひとつにして、心の交流を図り、心の復興を促す。

多世代協働による「食づくり・ものづくり」ハッピープロジェクト

【仮設住民で郷土料理を活かした課題料理開発等を行うナラノプロジェクト】

被災者と地域住民の交流充実化に向けた地域協働型プロジェクト

【多世代協働による「食づくり・ものづくり」ハッピープロジェクト】

被災者や福祉職員が縫製技術を学びながら小物を製作する。また、賛同する県外企業などのネットワークを構築する。障害者に復興の一助として活躍する場をつくり、生きがいを取り戻す活動を行う。避難生活の中で新たに福祉的配慮が必要となった引きこもりがちな方々も積極的に受け入れていく。

【多世代協働による「食づくり・ものづくり」ハッピープロジェクト】

南三陸人と人のつながり、まちづくり参加を通じた生きがい創出事業

【釜石・大槌大学プロジェクト】

被災者と地域住民の交流充実化に向けた地域協働型プロジェクト

【子どもと交流を通じたコミュニティづくり事業】

被災地におけるモノづくり教室と食事交流会を通じた心のケア事業

【のびやかで前向きな心も育てるミシンの学校】

「いだけ支援」(仮設住宅拠点化生活支援事業)【世代間交流】

【実施地域】 福島県浪江町(福島市)
【実施主体】 福島県災害ボランティアセンター
【全体参加者数】 1040人
うち仮設住宅居住者1000人

【実施内容】 大学生が仮設住宅に居住しながら声かけや引きこもり防止に寄与する活動を行う。ミニサロン、レクリエーション、花植えなど住民とのふれあいを行うとともに、夕涼み、芋煮、望年会などの住民親睦会を行う。住民と調和しつつ世代間交流を行うとともにコミュニティを活性化し、生活者の生きがいを創る。

被災者支援ニュースレター (第6号) (平成27年4月30日) 1/4

